

事業承継 主役は後継者

農林中金など 経営者は支援者に 山形でセミナー

農林中央金庫山形支店と県農業法人協会、県地域営農法人協議会は24日、農業者のための事業承継セミナーを山形市で開いた。中小企業診断士で、(株)後継者の学校(東京)代表取締役の大川原基剛氏が「成功へ導くための事業承継の心得」と題して講演し、「事業承継のキーパーソンは後継者。受け身にならず、自らが主役となり、経営者は支援者に回ること。事業承継を相続と考えると失敗する」とアドバイスした。講演要旨は次の通り。

確にすることで事業承継の打ち手が見えてくる。経営者は成り行きでは

なく、いつ倒れてもいいように、いつ、誰にどう承継していくか、計画的に準備をしておかなければならないが、全ってお膳立てをしては駄目。価値を受け継ぐ後継者は、自らが主役となつて、いつでも経営者になる準備をしておくことが成功に導く鍵だ。

全国の6割の企業経営者が、事業承継を計画的に進めておらず、後継者の5割が事業承継に取り組んでいない。

事業承継のキーパーソンは後継者だ。経営者は支援者。この関係をわきまえないと失敗する。

事業承継は、後継者にとつては、価値を生み出すために価値あるものを受け取ること。経営者にとつては、価値あるものを次世代につなぐこと。

事業承継を相続と同じと考えてしまうと、後継者は言われるまま受け身

になり、ただ待って事業を受け取るだけで自らの判断で動こうとしなくなる。事業承継と相続は別物と考えることだ。

目的や事業(ビジネス)、人・組織、財務・資産、権利、それぞれの承継を考え、後継者の決定と育成を考える。これが事業承継を成功させるためのポイントだが、特に「なぜ事業承継をするのか」「なぜ」を明



「事業承継は後継者が主体的に」と説く大川原氏